

(写真上)豊之浦小と二見小の熱戦 (写真下)試合前の注意を聞く伊方小の選手

小学校バスケット大会

六月五日、町見体育館で第四回町内小学校バスケットボール大会が開かれ、出場した六チームが熱戦を展開。会場に詰めかけた児童や父兄から盛んな声援を受けていました。

町教育会(菊池真会長)など三つの教育団体が、バスケットボールの普及と女子小学生の体位向上を目的に始まったこの大会も、今年で四回目を重ねることに技術が向上し、盛んになっています。今年も町内六つの小学校が揃って参加。一チーム女子十二人編成で、縦二十四メートルに横十四メートルのコートに熱い戦いが繰り広げられました。

伊方小が優勝 2位は豊之浦小

試合は、予選リーグがA・B二つのブロックに分かれ、

中でも目を引いたのが有舞来小チーム。児童数の減少(全校児童三十三人)で女子だけでは低学年まで出場しなればならぬが、特例が認められました。競技する五人のうち、男子一人までがコートに出られるものです。残念ながら決勝トーナメントへの出場はできませんでしたが、力いっぱい競技に盛んな選手が贈られていました。

大会成績表

優勝	伊方小チーム
準優勝	豊之浦小チーム
3位	水ヶ浦小チーム
4位	二見小チーム

郡大会惜敗

町大会で優勝した上位四チームと九町小の五チームは、六月十日日本の町見体育館で行われた郡大会に出場。伊方小は三瓶町の二木生小と対戦しましたが三対一四で敗れ、ほかの四チームも惜しくも敗

部落区長さん決まる

会長に谷藤さん・副は石上さん

部落と町行政とのパイア役としてお世話いただく、部落区長さんが決まりました。今年度は次の二十五人の方々です。よろしくお願いたします。



また、五月十一日に開かれた初会合の席で、区長の会長に谷藤孫一さん(大浜)、副会長に石上若廣さん(畑)が選ばれました。

- 部落区長名
- 大浜 二宮 孫一
 - 中の浜 二宮 静雄
 - 仁田内 山下 昭志
 - 河浦一 松岡 昭二
 - 湊浦二 村田 和助
 - 小中浦 渡辺 益雄
 - 伊方越 兵頭 藤吉
 - 亀浦 青山 種治
 - 中 井上 久康
 - 川永田 菊池 芳太郎
 - 川永田 泉口 保喜
 - 豊之浦 河野 隆光
 - 向奥 中村 行雄
 - 須賀 堀内 辰彦
 - 久保 石上 若廣
 - 須賀 臨田 照弥
 - 二宮 二宮 春光
 - 加見 鈴木 民雄
 - 田之浦 古田 一男
 - 古屋敷 松本 頼文
 - 大津 大成 吉一
 - 鳥津 竹上 寅記
- 敬称略

社会を明るくする運動

毎年七月は「社会を明るくする運動」が行われています。

この運動は、すべての国民が、犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

次代を担う青少年を非行から守り、非行に陥った青少年の立ち直りを助けるため、地域に理解と協力をお願いしています。ご協力ください。



「社会を明るくする運動」シンボルマーク

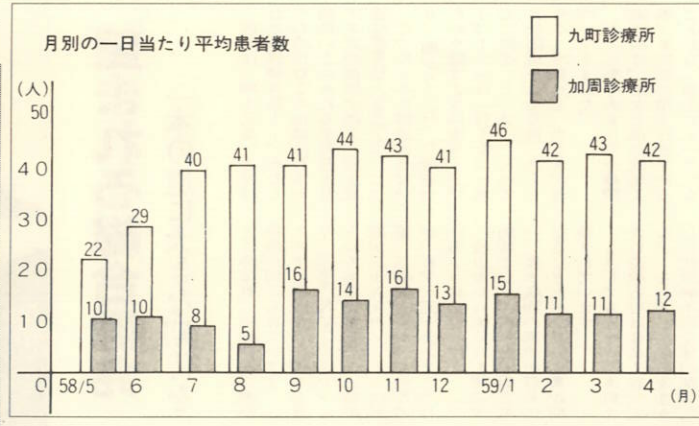
九町診療所の所長をおおせつかつて早や一年。あついで間に過ぎたような気がする。町から九町地区と加周地区の医療体制を見直し、町営診療所の施設を整備したいという話があつたのが五十七年二



博愛と奉仕
栗田 所長

月のこと。ちょうど、わたしが個人の立場で加周診療所を開設していた関係で、当初から検討メンバーに加わり、この事業の実現に協力して来た。開設までは、多少の(汗)余曲折もあったが、町営九町診療所の新設、さらに加周診療所を合併、出張診療所を併設して、町見地区の医療体制の充実と寄与することを目的に話がまとまった。幸い、町や八幡浜医師会のご協力と施設は充実、町営診療所としては県下でも屈指の施設だと思つた。また、愛媛大学医学部のご理解で若くて有能な医師を迎えることがで

先生からひと言



利用者の声



近くて静か
笹田キヨ子さん
(二見一丁目)

この診療所が出来てから通いで来ていたが、転んでから足が悪くなって入院するようになった。3月5日に入院したので、もう3ヵ月以上になった。家から近くで静か、建物も新しい、食事もうまく使ってもらっている。おとなしい先生だが、きちょうめんに調べてもらえるので安心して居る。早く治して退院したい。

き、昨年の四月二十五日に開業できた。診療の主体は清水医師をお願いしており、加周地区の従来の医療体制のもとで協力して両地区の健康保全に万全を期したい。もうひとつ、この地区の皆さんとは「おつ、いつとき顔を見ながら元気がよくなったか」と、気軽に話せる人たちがばかり。それだけに、地域医療の拠点としてどうしたらよいか、その役割を見極めながら諸問題を少しずつ解決し、一歩一歩地域の皆さんの健康管理の手助けができればと願っています。博愛と奉仕の心のもとでお互いが協力し合っている。



地域医療とは
清水 副所長

九町診療所で診療を始めて一年が過ぎました。何分、まだ日が浅く、残念ながら当診療所の機能が全ての面で有効に働くには、まだ時間がかかるといえます。さて、診療所は病院ではありません。診療所にはおのずから制限があります。例えば、看察制や給食に関する法的、経済的に保護されておらず、

入院費用が安く抑えられていて、少ない費用で工夫し、患者に必要なものや特別食を出すなど、職員一同努力しています。また、本町にとっても初めての事業、事務的なことなど

診療収入は5千万円

五十八年度の決算見込みがほぼまとまりました。これにより、九町診療所の収支決算、国民健康保険特別会計直営診療所算定は、実質三千八百萬円の赤字となりそうです。収入の部は、診療収入が入院外三千三百萬円、入院二千万円、その他の収入を含めると合計一億四千四百五十萬円あまりになります。支出の部は、医師二人と十

三人の職員給与分などが四千万円、薬代三千九百萬円、医療機器購入費三千九百萬円、公債費三千四百萬円などで合計一億八千三百四十萬円、差し引き三千八百萬円の支出オーバー。このままでは赤字決算となるため、五十九年度会計から不足分の繰り上げ充てで補てんする計画です。一年目ということで、一通りの設備機器が必要となるため、



超音波による心臓診断装置で検査



なくてはならない施設 在り方を皆さんとともに

昨年五月からの患者数、病気の種別、収支などの面から、この一年をかけた足で振り返ってみました。患者数、特に入院患者数は採算ラインより下回り、それに伴って診療収入が伸びず実質的な赤字になってしまいました。今後必要経費にはそう変化がありませんので、入院患者数を増やして診療収入の増加を計る必要があります。一般に、公営診療所などが軌道に乗るには二年以上かかるというわけ、九町診療所もこれからが正念場です。また、本町にとっても初めての事業、事務的なことなど

手さぐりでの開業でした。資料となる数字が一年分だけ、さらには患者さんの九〇パーセント以上を占める町見地区の人口が少くないこと(四月一日現在二千六百七十九人)、診療所の機能が徹底的にできていなかったことを考え合わせれば、収入面だけの判断では問題があります。町見地区には、なくてはならない診療所です。こうした現実の数値や問題点を極めながら、地域医療の中心としての役割を果たすにはどうしなければならぬか、また、どうしたらよいかを、皆さんとともに考えて行く必要があるそうです。

信頼こそ、病気を治す近道です。お医者さんにかかるためのポイント5か条を守り、健康な日常生活をおくりましょう。

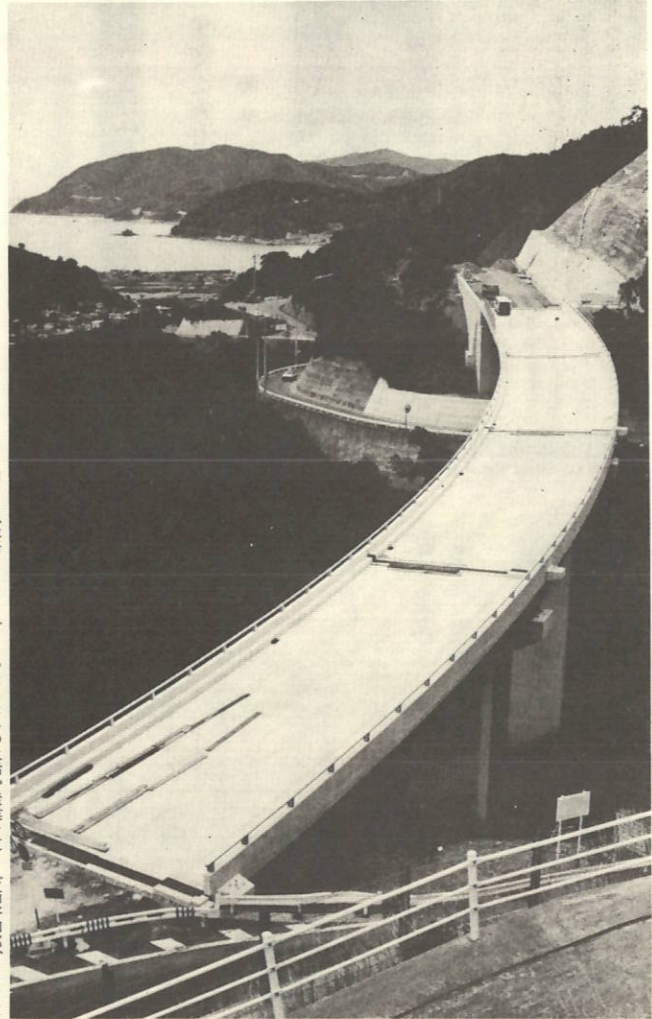
- 国保を
- クスリをむやみにほしがらぬのはやめましょう
- 家庭医をもちましょう
- 病院めぐりはやめましょう
- お医者さんを信頼しましょう

望まれる総合開発

一本の道に大きな期待を

古くは、岬十三里」と呼ばれた佐田岬半島。わたしたちの住むこの地域は日本一細長いといわれる半島部をアス式の海岸が続き、陸上交通に恵まれていませんでした。たった一本の国道は名ばかり、曲がりくねった海岸づたいを縫うように走り、ドラマイパーからは「行くな(一九七)酷道」と、ひにくられてきた国道一九七号線。今ようやく、汚名返上のときが近づいてきました。

あと三年半あまりの全線開通に向け、着々と進む改築工事。半島部の頂上付近を走ることから「頂上バイパス」な



工事が進む九町トンネル西側付近。中央の九町第2橋がほぼ完成。今年度第3橋、トンネル工事に着手予定。左上の集落は九町

目を向ける必要がありそうです。車を通し、農水産物を運び、

わたしたちの生活や産業を支える「道」。この一本の道が一変することで、八幡浜市及

び西宇和郡、さらには愛媛県を大きく変えようとしています。は、県施行分(約三二七五キロメートル)も含め約二二五・四

45年から本格工事

四十年四月に二級国道から一般国道へ名称変更となり、翌四十一年度から国道一九七号線改築の調査が開始。四十五年一月に正式ルートが発表され周辺の用地交渉が始まりました。

この年、国の第六次道路整備計画に組み入れられ建設省の直轄事業として本格工事に着手。五十三年第八次道路整備五年計画に基づき国道一九七号線佐田岬地区の全線改築に取りかかりました。

さらに五十八年度以降は第九次道路整備五年計画を実施、十八年の歳月と総工事費約三百八十九億円の巨費を投じて三十九・一キロメートルの全線開通を目指しています。

今年四月現在の進捗状況は、県施行分(約三二七五キロメートル)も含め約二二五・四

61年3月 九町―平石峠

五月三十一日、新国道一九七号線(頂上バイパス)の改築工事最後の難関、三机トンネルが貫通。新国道で本町と瀬戸町が一つに結ばれました。

四十五年から本格工事の始まった新国道は、今までに全行程の約六五パーセントに当たる二二五・四キロメートルが完成。すでに供用開始されています。残る本町と瀬戸町を結ぶ十三・七キロメートルの区間も六十二年三月には完成して供用開始される予定です。

「夢の道路」とまで言われた新国道の全線開通も、あと三年半あまり。やっと明かりが見え開たといえます。

新国道(頂上線)バイパス

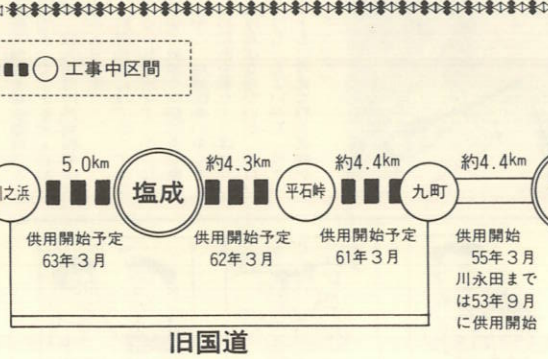
難関の三机トンネル貫通

全線開通は63年3月に

キロメートルが完成して供用開始。供用率は約六五パーセントに達しています。

建設省大洲工務事務所の施行分(二二五・四キロメートル)の工事概要は、土工部分二十五キロメートル、橋が三十二カ所、二・三キロメートル、トンネル二十箇所、八・一キロメートルとなつています。

道路の構造は全幅九・五メートル(トンネル内八・五メートル)、自動車の通行と歩行者を分離する歩道一・五メートルが設けられた二車線道路です。



供用開始状況

新国道工事概要 (八幡浜市矢野町―三崎町三崎)	
総延長	39.1km(供用済25.3km)
所要時間	50分(旧国道2時間)
全線開通	63年3月の計画
総事業費	約389億円
道路構造	土工部 28.7km
	橋 2.3km(32箇所)
	トンネル 8.1km(20箇所)
道幅	9.5m(トンネル内8.5m)

旧国道

両町長が貫通点で握手

五十二箇所で十キロメートル以上と新国道はトンネルと橋の連続。特に、全線二十箇所(八・一キロメートル)もあるトンネル部分、このうち五番目の長さを誇る三机トンネルが、五月三十一日午前十時二十分に無事貫通いたしました。



この三机トンネルは、五十八年二月から本町と瀬戸町境に十二億円をかけて建設が進んで、完成は来年二月ごろの予定です。

下半期の掘削など、仕上げまでには九か月あまりが必要で、完成は来年二月ごろの予定です。



貫通点で握手する
福田町長と阿部瀬戸町長

新国道の改築工事が進むにつれて、本町が早急に対応しなければならぬのは新国道へ通じる連絡道の改良整備です。

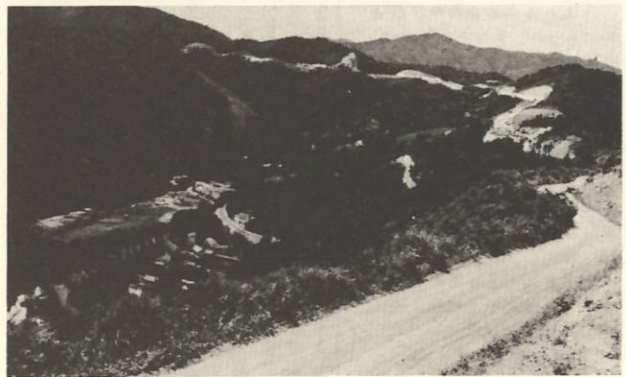
現在最も力を入れている整備路線は、亀ヶ池から平石峠を結ぶ町道四十二号線。六十二年二月の九町一平石峠間の供用開始に備え、昨年度から六年計画で、カーブ改良と最小幅員三メートルを最大七メートルにする整備工事に取りかかりました。

今年度の当初予算は町単独事業費で四千五百万円計、約百五十メートルの整備を計画しています。

もう一つは、九町奥の清水橋からの町道九町一丸越線です。すでに四年間で三メートルを改良(最小幅員三メートルを五メートルに)。今年度当初予算では町単独事業費に二千五百万円を計上して、約

やっと見えた

連絡道の整備が急務



工事が進む平石峠付近。右上から左上へ白く見えるのが新国道、左下が亀ヶ池 (鳥津越から撮影)

百メートルの整備を行う計画です。これによって、清水橋から町道八頭線までは八〇パーセント以上が完了します。

面路線とも、当初予算では町単独の事業費だけを計上しています。これに申請中の県費補助が加わり、計画延長より多く整備できます。昨年度の県費補助は二路線合わせて七千万円余りありまし

喜び多いが、心配な交通事故

待ちに待った新国道が順次整備され、八幡浜市及び西宇和郡の経済的効果は計りしれないものがあると思われ、交通量が増え、県内をはじめ他府県からの車両も多くな

ります。当然、心配になるのが交通事故です。それも、今までのように狭い道での離合などでバンパーが少し引っ込んだとか、ドアにキズが付いたとかの軽いものではなく、生命にかかわる重大な事故が多発しています。

現在、昨年一年間に発生した町内の交通事故(四月号の特集)でも最も重大なものは、漆浦の新国道で起きた転落事故です。車は大破、一度に三人が重軽傷を負いました。

今年に入ってから五月末日までに発生した事故件数は三十一件、負傷者は十二人、この中にも新国道川永田トンネル西側で発生した普通車どうしの正面衝突事故が目立ちます。一度に四人が重軽傷を負いました。

このように、新国道全線が開通して見えないときでさえ、今起り始めています。

町では、伊方・町見の交通安全協会などと協力して交通安全教育の徹底、事故防止啓発用看板の設置に努めることにしています。

国道 Q & A

- ◎国道とは……
一つには都道府県庁所在地と、政治・経済・文化のうえで特に重要な都市を結ぶ道路(197号線は起点が高知市・終点が大分市)。
- ◎国道の番号は何号まで……
番号は1号から449号まで(59から100までと、ほか6路線の48路線が欠番)
- ◎番号はどのようにして……
一般国道1号から58号までは東京を中心に、101号からあとの路線は北から南へ。
- ◎国道の延長距離はどのくらい……
国道の延長距離は約46,275kmで、地球の一週ちよつとに相当。
※この数値は全国道路利用者会議が発行した「道路ポケットブック」58年8月に発刊した資料。



開通への期待

一日も早く



浅田 巖さん(川永田)

トンネルと橋の連続。厳しい条件下での工事。明治生まれの人間には想像できない構想に、今さらながら感心しています。

わたしの住んでいる川永田まではすでに開通しており、八幡浜方面へ行くにはとても便利になりました。

経済不況などで伸び伸びになったのだと思いますが、全線開通は長年の懸念(夢)の国道の一日も早い完成を望んでいます。



大黒 英雄さん(大浜)

心配なことも

東方面が多く、伊方から西へは日ごろ行く機会が少ない。行く機会が少ない理由の一つは道が悪いことでもある。全線が開通すれば利用する機会も増えるのは、農業とのかかわりを考えれば西宇和管内の流通体制が確立されるので、全体から見ればメリットは大きいと思ふ。また、西宇和管内、特に伊方から西の農業後継者が非常に少ない。この道路の開通が農業の活性化につながってほしい。



櫻尾 敦子さん(加周)





土砂災害 三つの例

①土石流
②地すべり
③がけ崩れ



庭に土を盛り上げ、そこに水を注いでみましょう。はじめは、水がしみ込んでしまいきます。しかし、水を含みきれなくなると、土は崩れ始めます。土砂災害はこのようにして起こるのです。

典型的な例は、五十七年七月の集中豪雨による西日本各地の被害でした。特に長崎県

では、鉄砲水が一気に市街地に流れ落ち、途中土砂崩れなどを起こして大惨事となりました。

当時の新聞報道などにより、土砂災害はこのような被害を遭った人のほとんどが、死者・行方不明者合わせて三百五十人以上、そのほとんどが、生き埋めや濁流にのまれて被害に遭っているようです。

土砂災害なんて無縁のもの、被害を遭った人のほとんどが、思っていたのではないでしょう。ところが、雨がしばらく続いたある日、突然、地面が崩れるとはふだんは思ってもいません。しかし、台風や梅雨などで雨が一時に多量に降ると、いつもは水のように流れる土砂が流れ出し、ふだんは丈夫そうに

雨の時期

あなたの周り安全ですか 6月は「土砂災害防止月間」

見えるのが崩れ始めます。雨で地盤がゆるむためです。

土石流

雨を含みきれなくなった多量の土砂が急な谷を流れ出すのが「土石流」です。別名「山津波」などと呼ばれることもあります。突発的に起こるため大

地すべり

山などの斜面の一部がすべり落ちる。これが「地すべり」です。「がけ崩れ」に似ていますが、地すべりは、元の形をある程度保ちながらゆるりとして、しかも継続的に崩れるものであるとされています。

スポット

県高校総体で 2種目に優勝した 松岡 寿浩君



賞状を手に、喜びの松岡君

立派な体格。川永田の松岡君は、川之石高校の三年生。六月二日から三日間、松山市を中心に開かれた第二十八回県高校総体体育大会で、百メートル障害走り高跳びの二種目に優勝した。

身長百十三センチ・体重七十三キロ。スポーツマンらしい

は優勝できないと思われなかった。予選・決勝とも好スタートを切ったものの、決勝では横一線。五つめ(五十メートル付近)から徐々にリード。そのまま、だれにも前を走らせなかった快心のレースだった。予選で一五秒六、決勝では一五秒四と着実に伸びた。「一六秒を切って入賞が目標だったのに」と、自己記録を本番で〇四秒、〇五秒と更新。大会新を連発した。

得意な走り高跳びは二日目、昨年二位のやしい思いがある。大会前はひざの故障でハリ治療に通うなど思うように調整できていなかった。半

分あきらめず気楽に臨んだのがよかったのか、一人も一回目にクリアできた。陸上競技との出合いは小学校五年のころ。背が高いくいん高跳びやってみるか」と先生に奨められたのが始まり。以来、本町をはじめて近隣の大会は総大会にも出場している。勝てばさらに大きな大会のキップがもらえる。厳しい世界。次の大会でも記録に挑戦して、目標の全国大会で多く活躍してほしいものだ。

おもしろ数字

井上さんが90戸

東京は鈴木さん、大阪は田中さんがトップ。町内ではどの名字が多いかご存じですか。今年の4月1日現在、本町に住所のある人を対象に調査したところ、トップは「井上」さんの90世帯でした。次いで「渡辺」さんの78世帯、「菊池」さんの52世帯の順です。以下多い順のベスト10位は下記のとおりです。

ちなみに、愛媛電気通信部がまとめた電話帳での数字を見てみますと、県内では「高橋・村上・山本」さんの順。本町にもある名字を探してみますと、渡辺さん6位、井上さんが10位でした。

町内の名字ベスト10位

1位	井上	90戸
2位	渡辺	78
3位	菊池	52
4位	二宮	41
5位	上山	38
5位	山口	38
7位	山根	37
8位	竹内	36
8位	中田	36
10位	松田	35

以下古田33、兵頭33、阿部31と続く

梅雨後半に大雨の恐れ

情報は広報無線でも放送

集中豪雨や災害が発生しやすい状態になったときは、広報無線放送で町内一斉に気象情報をお知らせいたします。

月末までに巡視

町では、六月末日までに消防団や八幡旗警備隊と協力をお願いして町内巡視をすることになっています。危険と思われる箇所をチェックし、特に対策が必要なのは地主さんや工事関係者の方にはお願いいたします。隣近所の方には注意呼びかけることにしています。

防災対策は特定の場所を除き、地主さんや工事関係者のご理解と隣近所のご協力が必要です。災害が発生する前に、ぜひご協力ください。

がけ崩れ

「がけ崩れ」は、勾配が三十三度以上の斜面に多く発生して、梅雨後半に大雨の恐れがあります。梅雨後半に大雨の恐れがあります。梅雨後半に大雨の恐れがあります。

子供の水の事故

交通事故	64人
水	71人
6月	123人
7月	164人
8月	103人

6,7,8月は交通事故より怖い

こうした子供の水難事故の六割は、保護者がそばにいないときに起っています。交通事故の防止とともに、特に夏の間は子供の水の事故に十分注意しましょう。

〈お父さん・お母さんへ〉
大切な子供を水の事故に遭わせないよう次のことに注意しましょう。

- ▼子供たちだけで水泳や水遊びに行かせない。行くときは、保護者や大人が必ず同伴する。特に幼児がいる場合は、常に目を離さないようにする。
- ▼雨降りの後などで川や用水池が増水しているときは、子供たちを近づけないように注意する。
- ▼水辺で遊んでいる子供を見かけたら、声をかけ、安全な場所まで遊ばせるようにする。
- ▼家の近くにさくやふたのないため池などがあるときは、申し入れをして早めに処置してもらうようにする。



人権コーナー

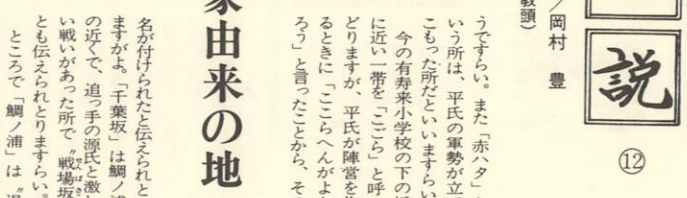
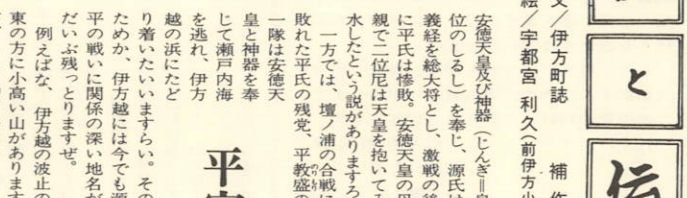
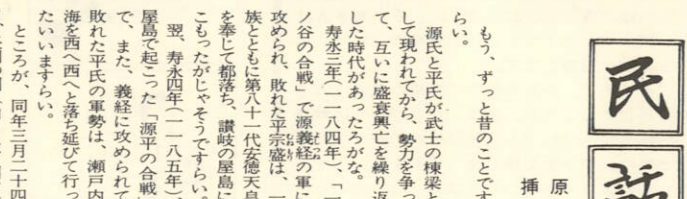
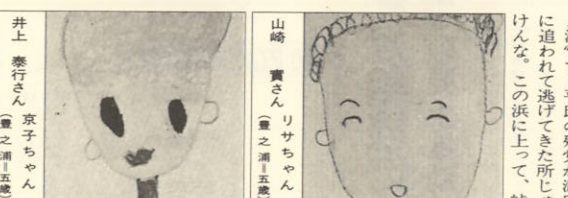
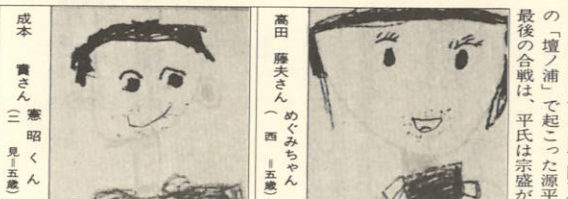
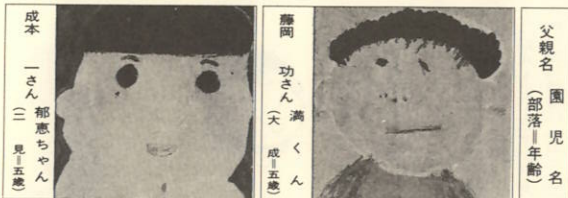
差別する 人になるまい ゆるすまい

宮本秀人君(伊方中一年) 宮本君の標語は、昨年度町人権擁護推進協議会が募集した人権作品で、「町人権擁護推進協議会長賞」に選ばれたものです。

うちのおとうさん

うちのおとうさんはよくおそんでくれます。「うちの目」にえをアシアソトしました。くばさゆり

久保 さゆりちゃん(河内=6歳)



民話と伝説

12

原文/伊方町誌 挿絵/宇都宮 利久(前伊方小教頭) 補作/岡村 豊



平家由来の地

その1

伊方越

もつ、ずつと昔のことですらい。源氏と平氏が武士の棟梁として現われてから、勢力を争って、互いに盛衰興亡を繰り返した時代があったがな。寿永三年(一一八四年)、「一ノ谷の合戦」で源義経の軍に攻められ、敗れた平宗盛は、一族とともに第八十一代安徳天皇を奉じて都落ち、讃岐の屋島にこもったが、しやそうですらい。翌、寿永四年(一一八五年)、屋島で起こった「源平の合戦」で、また、義経に攻められて敗れた平氏の軍勢は、瀬戸内海を西へ西へと落ち延びて行った。ところが、同年三月二十四日、長門の国(山口県下関市)の「壇ノ浦」で起こった源平最後の合戦は、平氏は宗盛が

安徳天皇及び神皇(じんぎきう)の位(し)を奉じ、源氏は義経を総大将とし、激戦の後、平氏は惨敗。安徳天皇の母親で二位尼は天皇を抱いて入水したという説があります。一方では、壇ノ浦の合戦に敗れた平氏の残党、平教盛の一族は安徳天皇と神器を奉じて瀬戸内海を逃れ、伊方越の浜にたどり着いたといわれます。そのため、伊方越には今でも源平の戦いに関係の深い地名がだいたい残っておりませ。例えは、伊方越の波止の東の方に小高い山があります。そこを「勝負が崎」と呼ぶのですが、追っ手の源氏と合戦の勝負を争った所じや

名が付けられたと伝えられとります。干葉坂は瀬戸内海に近いので、追っ手の源氏と激しい戦いがあったので、戦場坂とも伝えられとります。ところで「鯛ノ浦」は、退ノ浦で、平氏の残党が源氏に追われて逃げてきた所じやけん。この浜に上って、峠を越えて隣町の平家谷に安住の地を探して落ち延びて行ったもので、皇の御説は、舟をかついで越したというので「舟こし」と言います。一説では、平氏の残党が瀬浦へ入り、河内にも住み着いたという話もあるのです。河内には「御天皇様(天孫)神社」があり、古老の話では安徳天皇を祭ったものじやそうですらい。

鯛ノ浦には「山ノ神様」が祭られ、毎年、伊方越の人たちでくじ引きによる当番制でお祭りします。祭神は、平氏の高貴な武士じやそうでして、黄金作りの刀が御神体として祭られておったそうじやが、盗まれたのです。勝負の神様、受験の神様としてあがめられております。毎年、春の受験シーズンになると参拝者も多いんです。協力:神野 裕氏(伊方越)

